



クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》/1916年、油彩、カンヴァス/199.3×424.4cm (上部欠失)
国立西洋美術館 松方幸次郎氏御遺族より寄贈(旧松方コレクション)

株式会社NTT ArtTechnologyは、国立西洋美術館が主催する展覧会「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか? —国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」の趣旨に賛同し協賛を行っています。この協賛に伴い、参加作家の一人である竹村京氏の作品制作に協力すべく、国立西洋美術館所蔵のクロード・モネ《睡蓮、柳の反映》のデジタル化を行いました。

同作品は、モネが1916年と年記した、縦199×横424センチという巨大な油彩画で、柳の木が逆さまに映り込んでいる睡蓮の池の水面を描いたものです。本作は長く行方が不明でしたが、2016年にルーヴル美術館内で発見され、調査の結果、松方コレクションであることが判明したため、17年に松方家から国立西洋美術館に寄贈されたものです。

しかし、本作の上半分は大きく欠損しており、作品の全体像が確認できるのは欠損前に撮影されたモノクロの写真のみでした。国立西洋美術館では欠損部分はそのままにしながら、修復作業を約1年間かけて実施しました。

今回、竹村氏はこのモネ《睡蓮、柳の反映》とのコラボレーション

作品を出展しており、アトリエでの製作に当たっては株式会社NTT ArtTechnologyと株式会社アルステクネで制作した高精細デジタルプリントが使用されています。

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] では、国立西洋美術館での展覧会会期と合わせ、《睡蓮、柳の反映》を忠実に再現した実寸大高精細複製画や縦横それぞれ約2倍の拡大図などデジタル技術を駆使した様々な展示をご覧いただけます。

晩年のモネが描いた自然と一体となった大作を、筆致の迫力など絵の細部まで是非お楽しみください。

クロード・モネ 《睡蓮、柳の反映》 展示概要

- ① 実寸大高精細複製画 (199.3×424.4cm)
- ② 拡大版高精細複製画 (400×800cm)
- ③ フローティング・ギガ・ビューワー
モニター上で自在に拡大してご鑑賞いただけます
- ④ 竹村京氏インタビュー(動画)

ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか? —国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ

会期 2024年3月12日(火)～5月12日(日) 会場 国立西洋美術館(東京・上野公園)

国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ

開館時間 9:30～17:30(金・土曜日は20:00まで)
※入館は閉館の30分前まで
休館日 月曜日、5月7日(火)
(ただし、3月25日(月)、4月29日(月・祝)、
4月30日(火)、5月6日(月・休)は開館)
主催 国立西洋美術館
協賛 NTT ArtTechnology、DNP大日本印刷
観覧料 一般2,000円、大学生1,300円、
高校生1,000円
※中学生以下、心身に障害のある方及び付添者1名は無料。入館の際に学生証または年齢の確認できるもの、障害者手帳をご提示ください。
※詳細は、国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

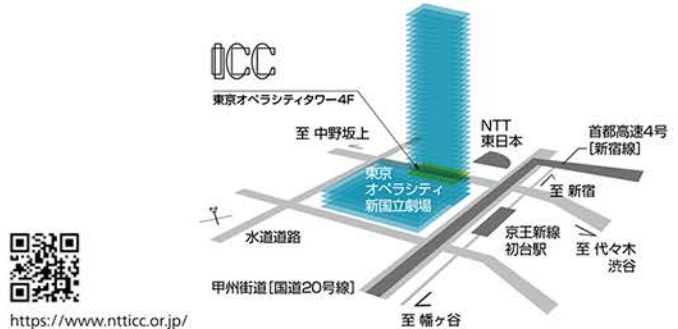


<https://www.nmwa.go.jp/jp/exhibitions/2023revisiting.html>

本展期間中、国立西洋美術館本館ロビーに設置されるフローティング・ギガ・ビューワーにて、クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》をモニター上で自在に拡大してご鑑賞いただけます。

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペラシティタワー4階(京王新線「初台駅」東口から徒歩2分)
お問い合わせ: ☎0120-144199



INTERCOMMUNICATION CENTER

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京/西新宿・東京オペラシティタワーにオープンしたNTT東日本が運営する文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。